

内閣府
特命担当大臣表彰
優良賞

厚生労働省推薦

セイコーウオッチ株式会社

(東京都中央区)

【概要】

➤ セイコーウオッチ株式会社は、腕時計の企画・開発・販売を行っており、その事業の一環で、視覚障害者のためのバリアフリー腕時計として、触れることで時刻を知ることのできる「触読時計」、時刻を音声で知らせてくれる「音声デジタルウオッチ」の企画・開発・販売も行っている。

同社のバリアフリー時計開発の歴史は古く、1939年、戦時中に負傷した軍人将校のために開閉蓋を設けた提げ時計タイプの触読時計を支給したことが始まりとなり、その後、現在に至るまで商品開発を続け、バリアフリー時計の普及活動に従事してきた。現在、「触読時計」、「音声デジタルウオッチ」両方の商品を扱っているのは同社のみである。

【功績・功労】

➤ 視覚障害者の就労支援

同社ではいち早くバリアフリー腕時計の企画、開発に着手し、1966年には機械式ムーブメントを用いた腕時計タイプの初代触読時計を発売し、視覚障害者の生活支援を行ってきた。触読時計の普及によって、視覚障害者のQOL(Quality of Life: 生活の質)は向上し、特に就労支援に大きく貢献したと考える。仕事において、時間管理は生産性、効率性を上げる上で非常に重要であり、いつでもすぐに時刻が確認できる

触読時計によって、視覚障害者の仕事効率を格段に向上させることができた。



宮内省からの要請で、戦傷を負った軍将校用に対して支給される。開閉ぶたを開け、針や略字を直接触れて時間が判読できるようにした。

初代バリアフリー提げ時計(1939年発売)



ムーブメントを小型化。初代は手巻・機械式腕時計として登場。針をしっかりと固定するために針はネジで固定している。

初代バリアフリー腕時計(1966年発売)

➤ 使いやすいバリアフリー時計の企画・開発

触読式では、特殊なパッキンを用いた防汗構造を開発し、開閉蓋が開いた状態、閉まった状態どちらでも汗や水滴をシャットアウトできるようにした。針についても、指で直接針に触れても時計が止まらないような技術を開発した。そして、文字板全体を透明かつ耐久性の良い特殊な皮膜で覆うことで耐食性や耐摩耗性を向上させた。

1998年には「音声デジタルウォッチ」を発売した。後天的に視力を失った場合、触読時計の時刻を指先で読むことにはかなりの慣れが必要であり、音声での確認の方が確実に時刻が分かるため、これら視覚障害者のバリアフリー時計として愛用されている。



音声デジタルウォッチ（1998年発売）

➤ ユーザーに寄り添った製品開発

視覚障害者からの「普通の人たちと同じようにおしゃれな時計を着けたい」などの要望を踏まえ、機能性だけでなく、ファッションアイテムとしての役割も加えた製品を企画・開発・販売し、視覚障害者のQOL向上に貢献している。



ピンクの文字板を採用するなど、女性の視点を取り入れた触読時計（2020年発売）



音声デジタルウォッチの試作品の中では、ランニング系ウォッチで人気のスポーティーなレッドや、より華やかな艶ピンクゴールド、かわいらしいコーラルピンク等、カラーバリエーションを試作。ヒアリングを通して、左上の最終モデルに決定（2020年発売）。

➤ 低価格化の実現

バリアフリー時計は、市場が極めて小規模で製造コストが高いところ、企業利益を考慮しない社会福祉商品として低価格化（1万円台）を実現している。